



古式ゆかしい神代踊りを奉納

毎年旧暦の6月25日、西祖谷山村の天満神社で奉納される国指定重要無形民俗文化財の神代踊り。その起源は、学問の神様として知られる菅原道真が讃岐守在任中に干ばつに苦しむ農民のために行った雨乞い祈願の踊りだと伝えられています。今年7月28日に行われ、神社の境内では太鼓や鉦の音が鳴り響く中、面をかぶった「露払い」役を先頭にあでやかで勇壮な踊りを地元保存会の会員らが披露し、訪れた写真愛好家や見物客は古式ゆかしい踊りを見守りました。

地域で子どもを見守ろう

「安心して生きられる子どもの権利を守るために」をテーマに7月14日、三好市民大学講座・三好市青少年育成市民会議講演会が池田総合体育館で開催されました。講師を務めた元警視庁警察官の幸島美智子さんからは、子どもたちを取り巻くいじめ問題、ネット社会の危険性などにどう対応していくかについて具体例を挙げながら説明があり、「我が子の友達はみんな我が子と思う子育てが大切、ありがとうという言葉の力を子育てにも生かそう」と参加者に訴えました。



わくわくフェスタでマチの魅力を演出

JCわくわくフェスタが7月30日、阿波池田駅周辺などで開催されました。今年は日中に加えて初めて夜の部が開かれ、へそっ子公園では、地元の子どもたちによる浴衣のファッションショー、ジャズなどのバンド演奏が行われたほか、ミラーボールと竹を使ったアート作品がカウントダウンとともに点灯され、幻想的な光の演出に来場者は見入っていました。また、四国各地の名酒が味わえる四国酒まつり夏の陣やうだつマルシェ、銀座よろず市なども同日開催され、子どもから大人まで終日多くの人でにぎわいました。



おもしろいこと、珍しいもの、耳よりの情報など、どんなことでもいいのでお知らせください。
三好市役所 秘書人事課 ☎ 72-7646

たばこ資料館で阿波葉刻み実演 こども食堂でワークショップ ダルズ市の高校生が三好で交流



たばこ産業で栄えた三好市の阿波葉を伝承し、地域の歴史や文化を後世に伝えていこうと7月30日、阿波葉刻み実演が阿波池田たばこ資料館で行われました。この日は、江戸時代に発明されたかん刻み機（復元品）などを使った刻みたばこの加工実演が披露されたほか、刻みたばこの製造工程や歴史などが見物客に紹介されました。元JT職員で市嘱託員の南さんは「今年で9回目の実演、年2回の実演を通じてこれからもたばこ産業で栄えた池田の歴史や文化を次世代に継承していきたい」と語ってくれました。



大人や子ども、高齢者も楽しく集まれる憩いの場を提供しようと始まった「こども食堂」で7月27日、地域おこし協力隊の加藤さんによるワークショップ「3色白玉を作ろう」がぎんぎと和囲和囲で行われました。参加した子どもたちは、もち米で作った白玉粉に豆腐を混ぜ入れ、丁寧にこねてかぼちゃを使った緑や黄色の団子を完成させ、夕食とともに美味しくいただきました。8月24日（第4水曜日）には、ワイヤーを使った小物づくり教室も行われます。ぜひ一度立ち寄ってみては？



姉妹都市であるアメリカのザ・ダルズ市から4年ぶりに高校生ら11人が三好市を訪問し、7月13日から19日までの7日間、市内のご家庭でホームステイしました。一行は滞在中、三野中学校で授業を見学したり、書道に挑戦したりしたほか、三野町の光泉寺で茶道や生け花を体験するなど日本の文化を楽しみました。また、市教育委員会主催の英語教室に参加し、地元の小中学生らと交流を深めるとともに、三好市内の観光地を巡り、三好市の魅力を堪能しました。

子育て支援センターで夏祭り

0歳から5歳児の未就学児童を対象に夏の涼を体感してもらおうと7月15日、子育て支援センターで夏祭りが開催され、親子81人が参加しにぎわいました。

子どもたちは青色や赤色、緑色などのカラフルなかざぐるまを作って遊んだり、おもちゃが釣れる魚釣り、昔遊びやボーリングなどに挑戦したりして、お母さんと一緒に夏祭りを楽しみました。子育て支援センターでは、今後もさまざまなイベントが開催されますので、ぜひお立ち寄りください。



祖谷の食の原点 雑穀文化を地域振興へ

にし阿波地域での世界農業遺産認定を目指す一環として7月15日、雑穀の魅力がテーマに剣山世界農業遺産推進協会によるシンポジウムが開催されました。基調講演では、雑穀の基礎知識や先進地の取組事例について日本雑穀協会の理事・事務局長の中西学さんから紹介があったほか、雑穀を生かした地域づくりについてパネルトークも行われ、祖谷雑穀生産組合の杉平組合長からは、「祖谷地方で古くから伝わる雑穀文化を守り、地域が一体となって楽しく地域振興に取り組みたい」と抱負が述べられました。